～人権が尊重されるまちをつくろう～
～身近な生活の中から学ぼう～

2026.6.19
第88号

人権・同和教育だより 丹波篠山

市同教ホームページ

発行
丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年2回発行 6・10月

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会
2026年度活動計画について

5月16日（土）に「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会　第28回定期総会」を開催しました。議案は2026年度活動方針および事業計画・予算を含め、すべて承認されました。

基本方針

1．我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の基本的人権が尊重されるまちづくりに向け、教育や啓発活動の充実に努めます。
2．「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」「ＬＧＢＴ理解増進法」「丹波篠山市人権尊重のあたたかいまちづくり条例」等、人権関係法令の理念に則り、市民、事業者、団体、機関等と広く連帯し、人権課題の解消と人権文化の確立をめざします。
3．人権・同和教育の学習活動の場を充実させ、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・地域づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会の実現をめざします。

活動方針

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会（市同教）は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざし、教育や啓発活動に取り組んできました。また、「日本国憲法」や「世界人権宣言」の“人間としての尊厳”と“権利の普遍性・不可侵性”という人権尊重の精神を要に活動を進めてきました。

しかし、今、私たちの周りや社会を見た時、現状はどうでしょうか？人権課題の解消や制度の変革は、歴史的にみても人権侵害を受けた当事者たちが声をあげ、立ちあがったことが最大の原動力となってきました。今ある権利がどれほどの犠牲と闘いのうえに築かれたものかという「歴史の重み」が薄れ、積みあげられた「人権の砦」の基盤が揺らいでいる危うさを感じます。

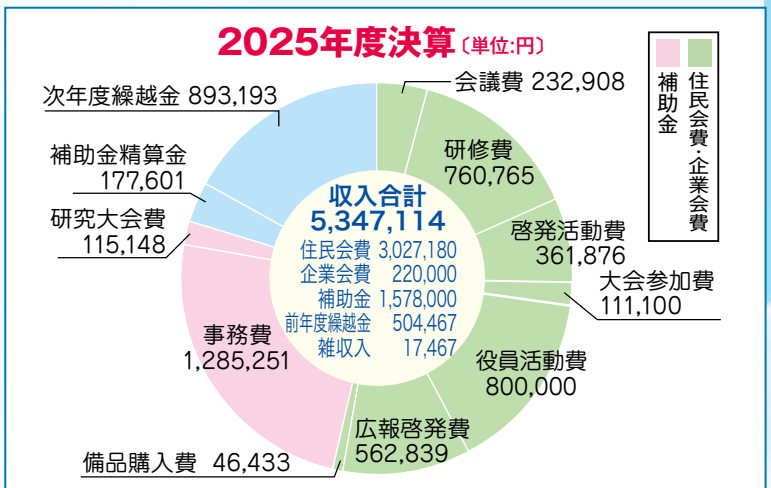
また、インターネットの普及で自分と違う考えの人を非難・排除したり、勇気を持って声をあげた人権被害当事者に対し、自分本位の間違った偏見・誹謗中傷を浴びせたり等、先人がつくった「声をあげやすい土壌」を枯らしてしまっています。

「人権」は誰かが考えるという自分から離れたことではなく、自分自身のことであり、周りの人たちや、何らかの形でつながっているみんなのことです。声があがる前に気付き、あがった声は全力で受けとめる人権感覚を常に磨いていかなければなりません。

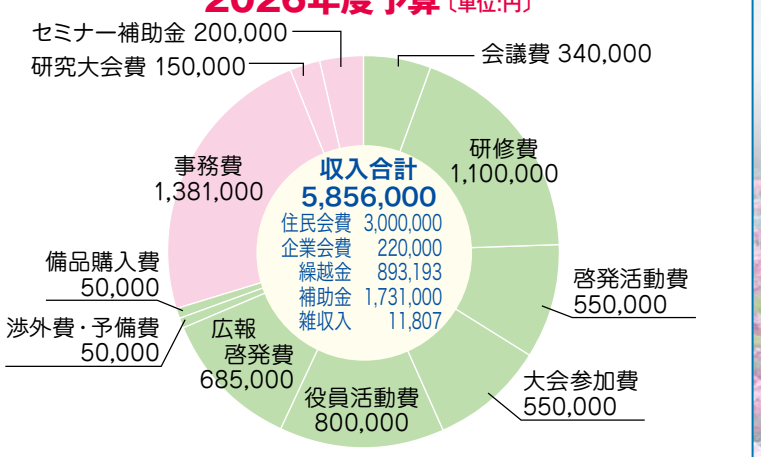
そして、自分優先の風潮が強く、人権尊重の土台が揺らいでいる今だからこそ、一人一人が「自分もこの歴史の一部であり、次世代につなぐ点の一つである」という認識と確かな人権感覚を持って人権尊重のバトンをつないでいくことが必要です。

差別に対して「それはおかしい！」と気付くことや声をあげること、誰かの痛みに寄り添うことは、小さな一つの点かも知れませんが、その点を欠かすことなく、次につないでいこうという意識を持つことが大事です。

私たち市同教は、本年度も同和問題をはじめ、様々な人権課題の解消をめざし「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生き生きとくらせるまちづくり」の実現に向け、また、一人一人の人権への関心がさらに深まるよう、全力で取り組んでまいります。



※補助金は、市からの補助金より人件費を除いた事業補助金です。



※補助金は、市からの補助金より人件費を除いた事業補助金です。

就任にあたり

会長　瀧山　玲子

2026年度、会長を務めさせていただくことになりました。

皆様には日頃より市同教の活動にご理解・ご協力をいただいておりますこと心より感謝を申しあげます。

私たち市同教は「人権尊重のまちづくり」をめざし、同和問題をはじめ、様々な人権課題の解消に向けて取り組んでいます。「人権は困っている誰かの問題」という捉え方から「自分たちの無意識の加害性」に気づく方向への変化が必要です。自分の中にある無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が他人を傷つけていないか、気づかずに他人の権利を制限していないか、また“自分は差別をしていないから”と、人権問題への見方や考え方を更新せずにすませていないか。自分自身の心と向き合う教育や研修が大切になってきます。

一人でも多くの皆様に人権・同和学習への関心と理解を深めていただけるよう、研修や啓発の在り方を工夫し、全市民参加の教育・研究組織として人権課題解消に向け邁進してまいりますので、さらなるご支援・ご協力をいただきますようお願い申しあげます。

「人権・同和教育セミナー2026」受講のお知らせ

昨今、差別は見えにくくなりました。しかし、差別がなくなったのではなく、差別は社会構造の中に埋め込まれて存在します。差別解消に向けて鍵となるのは生き辛さを感じているマイノリティ（少数派）だけではなく、特に、マジョリティ（多数派）が共に学ぶことが必要です。部落問題をはじめ、様々な人権課題について、みんなが自分事として捉え、真実を学び、偏見や差別をなくしていかなければなりません。

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会では、正しく知る、正しく理解するための学習の機会として、2021年度より丹波篠山市内在住者、市内在勤者に「人権・同和教育セミナー」を開講しています。このような学習を通して、人権・同和学習を深め、差別をなくす実践力を養い、「人権尊重のまち　丹波篠山市」をめざします。皆さまの受講をお待ちしています。

＊参　加　費：無料（原則は４回連続受講。ただし都合で選択も可）
＊会　　場：丹南健康福祉センター　２階　研修室
＊申込締切り：７月17日（金）としますが、随時、市同教までお問合せください。
＊気象警報等により中止する際には、ホームページで確認できます。

市同教ホームページからも申し込み用紙のダウンロードができます。

回	日時、場所	演　題	講　師
1	8月1日（土） 14：00～16：00	「夜間中学からみえるマイノリティの人権と教育をめぐる問題」	摂南大学講師　江口（えぐち）　怜（さとし）さん
2	8月22日（土） 14：00～16：00	「空気はよまない　時代をよむ」 ～絵本から考える人権について～	京都ノートルダム女子大学講師 フリーアナウンサー　橘高（きったか）　邦子（くにこ）さん
3	11月7日（土） 14：00～16：00	「女性と政治」～宝塚市初の女性市長として～	元衆議院議員・元宝塚市長 丹波篠山市男女共同参画アドバイザー　中川　智子さん
4	1月23日（土） 14：00～16：00	「部落差別解消推進法」から10年 ～現状と未来に向けて～	部落解放同盟 兵庫県連合会書記長　北川　真児さん

申込先：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局
電話／FAX：079-593-1260（月・火・木・金）　E-mail sajinken@pure02.pure.ne.jp

みんなの人権を考える映画会

©2025「35年目のラブレター」製作委員会

映画『35年目のラブレター』

入場無料！

と　き　2026年8月11日（火･祝）14:00～

ところ　四季の森生涯学習センター　多目的ホール

予約不要・当日直接会場にお越しください

過酷な少年時代を過ごし、読み書きができず生きづらさを抱えた主人公「西畑保さん」は定年退職を機に夜間中学に通う事を決意します。最愛の妻にこれまでの感謝を込めたラブレターを書きたいという目標がありました。これは西畑夫妻の実話であり、保さんの感動的なエピソードは様々なメディアで取り上げられました。

戦争・差別・貧困・病・いじめ・不登校等により義務教育を終えられていない人々がいます。夜間中学で学ぶことにより、生きる勇気を得ることができるのです。

今年度の「人権・同和教育セミナー2026」の第1回でも夜間中学をテーマに学習します。これを機会に夜間中学から見える人権や学びの大切さを考えてみませんか。無料でご覧いただけますので、是非ご来場ください。

研修に「丹波篠山の人権史跡」を巡るフィールドワークをやってみませんか？

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。

市内には、過酷な藩政に抗（あらが）った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡ってみませんか？フィールドワークを希望される団体には、丹波篠山市同教から、半日5千円の講師料を補助します。詳しくは丹波篠山市同教までお問い合わせください。

掲示板

主な行事予定

＊7月25日（土）
兵庫県人権教育研究大会　丹波地区大会
四季の森生涯学習センター

＊9月26日（土）
兵庫県人権教育研究大会　中央大会　南あわじ市

＊11月28日（土）、29日（日）
全国人権･同和教育研究大会　埼玉県

＊12月12日（土）
丹波篠山市人権･同和教育研究大会　丹波篠山市立田園交響ホール

役員紹介

会長	瀧山　玲子
副会長	高橋　京子
〃	野々口竜己
〃	松家　次朗
〃	待場紀代美
〃	塩尻　活平
会計	安井　直哉
会計監査	中澤　吉富
〃	青木　恵由
顧問	五十山田潤
理事（団体選出）43名	

編集後記

今年度の「みんなの人権を考える映画会」と「人権・同和教育セミナー2026」の第1回目は、夜間中学をテーマに学習します。夜間中学は社会におけるマイノリティ（少数派）の縮図とも言えます。つまり夜間中学を通して、社会のさまざまな人権課題がみえてきます。

また、教育を受ける権利は、人間としての尊厳を保ちながら幸せに暮らすための基盤となる基本的人権です。マララ・ユスフザイさんは2013年に国連本部で「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられる」というスピーチをされました。

夜間中学をとおして、人権課題や学びがもたらす豊かさを考えてみませんか。

会報編集委員紹介

安　井　聡　博
中　井　慎太郎
西　田　こず枝
森　田　貞　二

本年度も、上記の４名の委員で編集を行います。会報が皆様に親しまれ、人権をより身近なものに感じていただけるよう、紙面づくりにとりくみます。

※掲載しております研修会やイベントは、気象状況等により中止・変更する場合があります。市同教ホームページまたは電話（月・火・木・金／９時～17時）にてお問合せください。

暮らしの中から

磁器婚式　～夫婦のプロムナード～

ボクと妻が結婚して今年で20年。笑い合ったこともあったし、すれ違いになったこともあったし、励まし合ったこともあったし、まぁ、長いようで短くもあり、短いようで長くもあり‥‥、いろんな場面、いろんな時間を思い出します。

結婚式の写真を見返しながら、そんなことを妻と回顧していると、結婚20年目は「磁器婚式」と呼ばれることを知りました。「年月と共に価値が増してゆく、磁器のように固い絆で結ばれた夫婦の関係」という意味だそうです。

20年経って、互いの価値が増したのか、固い絆であるのか、と尋ねられると、苦笑いばかりになるのですが、ただ、できるだけ歩調を合わせて互いの立場や生き方を尊重してきたんじゃないかなと、ちょっぴり自信を持っています。

ところが、とある民間会社が行っている「夫婦の時間意識調査」のなかの“休日の会話時間”の項目にドキリとさせられました。20年前の2005年が約1時間30分に対して、直近の2025年が約1時間10分、と減少傾向にあります。会話時間が多いほど、関係性が良好とのことです。

うわっ、我が家はもうちょっと少ないかもと、妻の横顔をチラリ。年を重ねるにつれて、ついつい、「言わなくても分かってくれるだろう」と自答し、必要以上のことは喋らなくなっていたように思います。で、妻に訊くと、「それはダメ。たわいのない日常の会話が大切！」と言われました。前述の“自信”が崩れ去りそうです。

プロムナードとは、「遊歩道」や「ぶらぶら歩く」という意味のフランス語で、ボクが憧れる旅先のイメージです。そうなんですよね、人生に無理に価値的な要素を付加しなくてもよく、夫婦の歩みも「たわいのない」というか「気まま」というか、時には寄り道もあって、そういう緩やかな歩調でいいんでしょうね。

「磁器婚式」の次が「銀婚式」で、以降、5年おきに「真珠婚式」「珊瑚婚式」「ルビー婚式」「サファイア婚式」、そして「金婚式」と続きます。そんな金銀宝石をちりばめた格式に惑わされないよう、夫婦の会話時間やコミュニケーション、お互いが築き上げてきた暗黙の関係性を大切にして、ボクたちだけのプロムナードを歩んで行きたいです。

安井　聡博

母からの贈り物「頭、♥撫で撫で♥」

母が息をひきとる3日前の施設での出来事でした。母は横たわっているベッドの上で、口角を精一杯広げ、私に向かって、必死の形相で何かを語りかけ始めました。母の声が全く聞こえないので、私の耳を、私の頭全体を、母の唇に触れるほどに近づけました。その瞬間、私にとって、生涯、永遠に忘れられない衝撃的な出来事が起こりました。

母は、毛髪がなく光り輝いている私の頭部を、♥撫で撫で♥し始めたのです。私はその瞬間、母の手のぬくもりが、私の頭部を優しく包んでくれている幸せに、私は身をゆだねていました。これまでの人生で、母の手のぬくもりをこんなに愛おしく感じたのは、この時が初めてでした。このままこの愛おしくて優しい時間が、いつまでも永遠に続くことを、心ひそかに願わずにはいられませんでした。

しかし、1分半ほど過ぎると、母は再び、安堵したかのような表情を浮かべ、静かに眠り始めました。母が最後の力を振り絞り、私の頭皮が真っ赤になるほど、♥撫で撫で♥してくれた「思い出」は、母からのかけがえのない永遠の贈り物でした。

施設に入所する半年ほど前から、大小便をはじめとする母の介護で、私は疲労困憊していました。脳梗塞の後遺症で体の不自由な私が孤軍奮闘している姿を見かねたケアマネジャーの方が、母の介護施設を紹介してくださいました。母が入所することに、「本当にこれでいいのだろうか？」という後ろめたさを感じながらも、どこかでほっとしている自分がいたのも事実でした。母の介護を放棄したような複雑な気持ちを、ずっと引きずり、すきま風が私の心に吹き続けていました。そんな思いの中での、「頭、♥撫で撫で♥」の出来事は、私に「こんな私でも、母の役に立てているのかな？」という、ずっと遠くに見えていた「希望の灯り」を身近に感じることができた瞬間でした。

淡路在住の姉に、この「頭、♥撫で撫で♥」の出来事を語った時に、「お母ちゃんが亡くなる3日前に、口角を精一杯広げて、あんたに伝えたかったのは、『ありがとう！』という思いやったんとちがうやろか？」と、そんなドラマチックなことを、私に寄り添い、語ってくれました。その母の真意を、やがて、この世での私の命の炎が燃え尽き、母に再会した時に、あの時、私に何を伝えようとしていたのか、そっと尋ねたいと思います。

森田　貞二